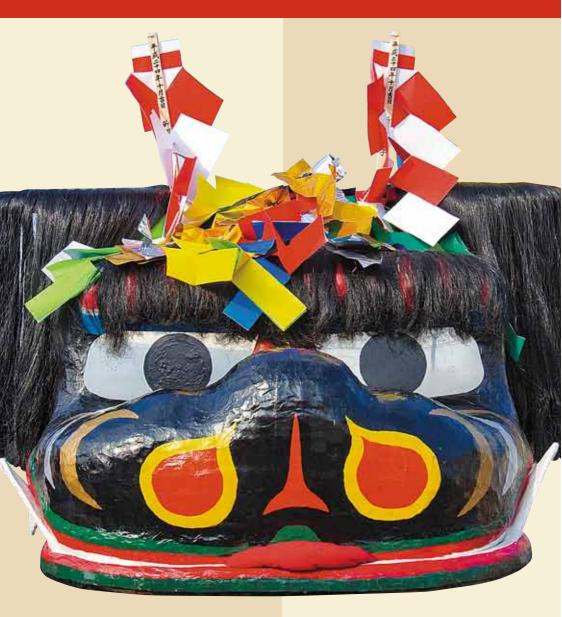


随筆特集





|年の伝統の技が贅をつくした「煌」 きらめき

の丹精とめた手づくりの味わいは、金毘羅詣での人々からも広く親しまれてきました。 毘羅さんの麓ではじめた酒づくりがその第一歩。以来、金刀比羅宮のご神酒として栄誉をうけ、そ 金陵の歴史は、今をさかのぼること二二〇年の寛政元年。当主八代目であった西野嘉右衛門が、金 讃岐の金毘羅酒として親しまれてきました金陵が、酒づくりの贅をつくしておくりだした清酒「煌」

清酒「煌」のえも言われぬ〈風味〉と〈こく〉には、金陵の心意気と酒づくりひとすじの神髄が細やかに

真珠玉のごとく搗きあげ

水晶のごとく研ぎすました酒造好適米(山

田錦

清酒「煌」に使っているのは、酒造好適米の中から選びぬかれた最高の大粒米。これを丹念に高度精 白し酒の雑味等の原因となる外層部を削り、磨き、吸水のよい、粟粒よりやや大きい、 ,か3割ほどの、まるで真珠 玄米のわず

香川県琴平町六二 とおり複雑多岐にわたる

玉のような芯だけの酒米 造り」といわれている 昔から「一麹、二酛、三 みへと移っていく。 り返し研ぎすまし、本 の寒の水でくり返しく とする。これを、良質 格的な酒づくりの仕込

こうして、清酒のアルコール分、旨味を米だけから造り出した、手づくりの微妙精緻な「煌」を誕生 低温でじっくりつくりあげる。 つこなしていく。杜氏は寒中夜も眠らず、我が子を育てるように精魂をこめ、技の限りをつくして 工程を熟達の杜氏が一つ

日本酒をこよなく愛するみなさまにじっくりと味わいつくしていただきたい。 芳醇なこく、口あたりの爽やかさ、喉ごしのよさ、まさに清酒の芸術品。この稀なる清酒「煌」を、 させたのです。

標準価格 超特撰

ラベル右下に記しております番号は た品質の証し。 ご入手いただいた |本一本責任をもって製造いたしまし

貴方さまだけの番号です。

西野金陵株式会社番川県仲多度郡斐平町六二三 電話(0ハセセ)セニ-四二三三 飲酒は法律で禁止されています。妊娠中や授乳期の飲酒は気をつけましょう。







ほ ろ酔い詩歌紀行

二人の戦争歌集

安

森

敏

隆

: 8

酒葉立てたる門 三家族の喜び

日

高

昭

: 10

内

嵯峨信之先生と江藤淳先生

宮

地

お酒は百薬の長

杉

本

忠

夫

カタカナ表記あれこれ

志

村

有

弘

: 19

絵と文図

アラビカム

中

西

美

子

野 潤

智 子

子 : 12

: 16 : 18 : 14 国民栄誉賞

野山の達人

高 池

橋 井

和 島 優 : 4



絵と文図

オーストリアの秋

癸巳元旦

Щ

西

靖

彦

片

岡

義

男

夢見る男たち

永

畄

慶之助

猫は鰯をくわえる

大坂が生んだ才覚の人西鶴

桐

原

良

光

絵と文図 同窓会

佐

Ш

彦 守

栄

毅

自分自身の救助

志

村

さかもと ふさ …30

- 3 -

小説風・江戸神仏歳時記

26

曼珠沙華

宮

本

富

夫

親分

Щ

本

千

明

千葉県市川市・眞間の「手児奈霊神堂」

郡

順

史

: 37

表紙・グラビア…三木の大獅子

国民栄誉賞



池 井

慶應義塾大学名誉教授 優

と快く受けることになった。 民の皆さまのご支援のたまものです」 王」と呼ぶのにふさわしい。本人も「国 会十三連覇はまさに「レスリングの女 国民栄誉賞を受賞した。 世界選手権十 女子レスリングの吉田沙保里選手が オリンピックと合わせて世界大

国民栄誉賞制定の経緯と過去の受賞者

を対象とする内閣総理大臣顕彰があっ で「学術、文化の振興の貢献したもの」 えるべく創設したものである。それま 世界記録を塗り替えた王貞治選手を讃 当時の福田赳夫首相が、ホームランの そもそも国民栄誉賞は、一九七七年

> た。 なく、 が必要だとの考えからできたのであっ たが、プロ野球選手を顕彰して前例が より柔軟な表彰規定をもつもの

ピック無差別級金メダルなど前人未踏 ことを目的とする」として、スポーツ 達成し「鉄人」といわれたプロ野球の の記録を達成した山下泰裕、広島カー 選手権九連覇、ロサンゼルス・オリン 界から王を第一号として、全日本柔道 あった方に対して、その栄誉を讃える い希望を与えることに顕著な業績が 一筋にプレーし連続試合出場記録を 「広く国民に敬愛され、社会に明る

> チームが受賞している。 を与えたなでしこジャパン―日本代表 で行われたオリンピックで女子マラソ をあげ、三十一回の優勝を記録した大 な姿勢によって日本国民に感動と勇気 たし、最後まであきらめないひたむき FA女子ワールドカップで初優勝を果 震災で打ちひしがれていたなか、 メダルを獲得した高橋尚子、東日本大 ンに優勝、陸上競技で日本女子初の金 横綱千代の富士、二〇〇〇年シドニー 衣笠祥雄、 史上最多の通算一〇四五勝 F

と映画演劇界への貢献が評価された長 しを与え、美しい日本語の普及に貢献 ŋ じて明るさと希望を与えた美空ひば 以下、作曲家では服部良一、吉田正、 関係者である。独特の曲調「古賀メロ た基準があるが、 した藤山一郎、俳優では卓越した演技 遠藤実、歌手では戦後の社会に歌を通 大衆に日本の心を語り続けた古賀政男 ディー」により昭和の歌謡界を通して、 歌謡曲によって国民に希望と励ま 問題は文化人、芸能

スポーツの場合、記録や優勝といっ

「サザエさん」によって社会にうるお「サザエさん」によって社会にうるおたこた冒険家の植村直己、家庭マンガたした冒険家の植村直己、家庭マンガたした冒険家の植村直己、家庭マンガたした冒険家の植村直己、家庭マンガ

辞退した人、是非表彰したい人

いを与えた長谷川町子がいる。

したのであろうか。 受賞を辞退したケースがいくつかあ 受賞を辞退したケースがいくつかあ

イックモーション、牽制の技術も上で 大リーグのピッチャーよりはるかにク が、盗塁は塁間も同じ、日本の投手は が、盗塁は塁間も同じ、日本の投手は が、盗塁は塁間も同じ、日本の投手は が、盗塁は塁間を同じ、日本の投手は

> 言った。 た。中曽根首相の打診に対して福本は十分国民栄誉賞にふさわしいと思われ

もでけんようになる」。 「そんなもんもろうたら、立ち小便

二人目の辞退者は、作曲家の古関裕

ンピックの入場行進に使われたオリンており、名曲「長崎の鐘」、東京オリ而であった。古賀政男がすでに受賞し

軍歌を作り、それらの曲によって戦場が辞退した。生前古関は戦時中多くのの授与が内定していた。しかし、遺族

作曲を手掛けた大作曲家だけに、没後歌「六甲おろし」などあらゆる分野のピックマーチ、阪神タイガースの応援

に送られていった兵士に思いを馳せ、

つながったのであろう。任への自責の念が、遺族の辞退表明に気に病んでいたという。本人の戦争責

に、小泉内閣から授与を打診されたが、グではじめて首位打者を獲得する活躍二〇〇一年、日本人選手として大リー三人目 は、イチローであった。

「国民栄養賞をいただくことは名誉で、もし賞をいただけるのなら現役をで、もし賞をいただけるのなら現役を可退した時に頂戴したい」と固辞した。引退した時に頂戴したい」と固辞した。おれたが、再度固辞した。以後今日にいれたが、再度固辞した。以後今日にいたるまで打診はない。引退後に実現することになろう。

を作った将棋の羽生善治は、 王となり、昭和の巨人大山康晴を抜い にも異論がなかろう。二十五歳で七冠 ングを逸した。三船敏郎、石原裕次郎 退と同時に監督に就任したためタイミ こどもから老人まで日本プロ野球に目 ないんだ?」。そうした疑問は当然で したことを含め、最有力候補に挙げた でなく、 て通算タイトル保持八十二期の大記録 は引退の時、授与すべきであった。 を向けさせた戦後最大のヒーロー長嶋 ある。野球をあまり知らなかった女性 「王が受賞して何故長嶋が表彰され チビッ子の将棋ファンを増や 強さだけ

野山の達人



高 橋 和

(作家・郷土史家)

されている。 たばかりなのに、退隠生活を余儀なく 肺病を患っており、まだ六十代になっ 料製造工場に長く勤めていたせいで珪 の動植物に関しては実に詳しい。

同じ町内のAさんは磁器タイルの原

借りはするものの近隣の野山を歩き もっているわけではなく、杖の助けを しかし、病人然として家に引き篭

はないのだそうだが、むかしから好き れ立ちくらみに見舞われ、決して楽で っている。 本人に言わせると、出歩けば、 息切

> だった野山歩きを止めるわけにはいか ないのだとか。 こう言うだけあって、Kさんは野山

労回復に効くと教えてくれる。 熟した実を焼酎漬けにして飲むと、 鮮やかな色を褒めるくらいだが、彼は 黙って見過ごすか、せいぜい赤い実の ミの実を目にしたとしよう。わたしは 緒に歩いているとき、仮にガマズ 疲

から、 こんな話がさりげなく出るくらいだ 彼の家へゆくと様々な自家製薬

> きる。 知られるマムシ酒だって見ることがで 酒を目にすることになり、 強精効果で

ないわけだが、彼はこの怖い毒蛇にも ら、まずマムシを捕まえなくてはなら 詳しく、おもしろい話を聞かせてくれ マムシ酒を造るには当然のことなが

の沢地で探すことにしている。 う。彼は即座に答える。主として里山 いる所は独特の臭いがするから分かる マムシの見つけ方を尋ねたとしよ

では訊かなかったが、おそらくある種 の生臭さなのではあるまいか。 気味が悪かったのでどんな臭いかま

けた人間に咬みつくなど、予想外の恐 蛇は一気にビンを飛び出して、蓋を開 と、攻撃的で、跳躍力に長けたこの毒 ンを立てたまま不用意に蓋を開ける の一升ビンに入れるのだそうだが、ビ ろしい反撃に出てくるらしい。 マムシは生け捕りにしたところで空

んなときかと尋ねると、妊婦蛇を捕ま

目になったが、出てきた赤ちゃん蛇が えてしまい、ナイフで腹を切り裂く羽 (蝮は卵生ではなく胎生)牙を剥いて

怖いとは思わないらしく、隣人による た。これには本当にぞっとしたそうだ。 こうは言うものの、普段はまったく

襲いかかる姿勢をとったので仰天し

と、ある日、首根を割り竹で挟んだマ

ところだ。よかったら差し上げるゆえ れと、鼻先にマムシを突きつけられ、 水を入れたペットボトルを用意しなさ れはいま近くの草むらで捕まえてきた ムシを手に玄関にやってきた彼が、こ

は慌てることなく、弱ってるから遠く い、大騒動になった。しかし、Aさん うちになんとそのマムシが逃げてしま 要る要らないの長立ち話をしている 腰を抜かしそうになったそうだ。

のように、再び割り竹に収めたそうだ。 蛇殿を探し出すと、何事もなかったか ない話があるのだが、おもしろいの Aさんに関してはこんなふうに退屈

へは行くまいよと言い、ほどなく逃亡

は話だけではない。 彼の家へ行くと、前述の自家製薬酒

木の根の細工物を見ることができる。 のほか、野山で採った薬草類があるし、 噂を耳にして彼の家へ押しかけ、 木

の夏だったが、八畳の部屋いっぱいに の根を見せてもらったのは三、四年前

れたものだ。 置かれた細工物の見事さに息を呑まさ

う。

本人の説明によると、川原で拾って

里山で掘り出してきた生木の根っこな きた流木、山道脇に転がっていた倒木、

然が創り出した不可思議な造形に、ニ ど、出自は一様ではないらしいが、自

そうだ。

弟子たちは尊敬する師匠の言葉を聞

花瓶台などになっていたのである。 の手が加えられ、見事な床の間の置物、 ス塗り、トーチランプによる焙りなど 野生の柿、栗、あけびなどの在処に

らっている。 秋になると柿や栗採りを楽しませても わたしのような不器用な者でも毎年、 も詳しく、気安く教えてくれるので、

ただし、茸に関しては非常に口が固 噂によると、彼は松茸を含む様々

を続けている。

奥さんや息子さんにすら一切教えよう な茸の出場所も知っている様子だが、 としないのだそうだ。

ある。 仲間うちで「師匠」と呼ばれることが 野山の達人と一目置かれている彼は

「野山を歩くのは本当に身体にい

師匠はことあるごとにわれわれに言

れている珪肺病の症状が好転している んだから」 その証拠に、医者に治らぬと宣告さ

膝と腰をいためており、乙さんは糖尿 を怖れる身だが、野山歩きを欠かさな 病と高血圧で通院、丙さんはがん再発 き流すようなことはしない、甲さんは

師匠にならって二時間ほどの野山歩き つを欠いている身だが、ほとんど毎日 かくいうわたしも、胃全部と腎臓

先ずは、二人の戦争歌集



に渡り漢口攻略作戦などに参加し翌年 に渡り漢口攻略作戦などに参加した中で作っ たものである。渡辺は、一九〇八年六 たものである。渡辺は、一九〇八年六 たものである。渡辺は、一九〇八年六 たものである。渡辺は、一九〇八年六 たものである。渡辺は、一九〇八年六 たものである。渡辺は、一九〇八年六 に島県呉市に生まれる。広島 県立高等師範学校を卒業し、呉市立高 県立高等師範学校を卒業し、呉市立高 県立高等師範学校を卒業し、呉市立高 県立高等師範学校を卒業し、呉市立高 県立高等師範学校を卒業し、呉市立高 県立高等師範学校を卒業し、呉市立高 となる。一九三七(昭

いる。

である。一九三五年、三六年、三七年

「呉アララギ会」から発行されたもの

する。その後、一九四〇年三月三十日、の八月二十一日に河北省八里台で戦死

今朝も双眼鏡に明らかに見ゆ手榴弾に殪れたる将校と兵二名が 手榴弾に殪ったる将校と兵二名が

敏

隆

隣の部屋の入口に見えき 負傷せる匪賊の足が吾が入りし

春来る土に花の種を蒔く

- 8 -

向かう敵兵も、一旦、生命を失い死を いこんである。戦場にあって生きてま リーダー」や「手榴弾」を残らずうた をとらえ、敵陣にある「泥にまみれし にあって「硬ばれる表情」をした兵士 を戦場にあっても首に吊るし、炎天下 兄が餞別にくれた「マグナ双眼鏡

纂されたということも多少考慮に入れ によらず、死後に友人たちによって編 れて発行されたものである。本人の手 日、仲間によって六○四首にまとめら 没後一年足らずの一九四〇年三月三十 たわれているところに、特立性がある。 河」をはじめとする自然もとらえてう の視点の高みから「敵」も「味方」も「黄

にじみ出ている。

西省を中心に転戦したものを、 争から第一次世界大戦までに中国の山 年、一九四二年、一九四三年の日 一九三九年、一九四〇年、一九四一 また、宮柊二の『山西省』は、 戦後の 中戦

九四八年六月二十日になって刊行し

指しし黄河ぞ光りつつ下る

て読まねばなるまい。

波のやうな山脈の重畳にばかり戦って たものである。宮柊二自身「後記」 来た無名の、それは歌人でもなく思想 「主として中国 北部大陸に、

て言へば丁度、魚が水面に○○ふやう 人でも無かった一人の補充兵が、例へ にして記した感慨の断片の蒐積に過ぎ

るところに柊二の誠実と悔恨と孤独が さうしたものに過ぎない」と言ってい 之は作品ではない。この一冊の作品は る。「之は作品ではない」と言ってい ない。当時に遡って正直に告白すれば

あ

なくなる。直己の冷静な〈眼〉は、そ 迎えようとするときもはや「敵」では

岩稜に群がる鳥の鴉にて 砲隊が道の畷に砂捲くを 展望哨に瞰て吾は立つ

黄河が見ゆる丘の上の端乏しき草踏みて止れり濁りたる 山上のトーチカの空青く清み。時おり木霊を呼びつ啼けり 頭より血をば喀きつつ戦ひて 吊せし鐘もありありと見ゆ

> ころぶして銃抱へたるわが影の大き民族をわれは憶はむ 古よ今に黄河が耕しし

あかつきの暗き水際にひしめきて 黄河の岸の一人の兵の影

とである。これは歌人としての独特の をはき、「銃」をささげつつも敵兵の をうたいながら、はるかなる鳥や鴉の 立ち、「山上のトーチカ」や「黄河」 う性格から来ることにも注意しておか なって編纂されて刊行された歌集とい 彼方の空を見ているような歌が多いこ 資質とともに、十年余たった時期に いえども、一兵卒として「展望台」に 「木霊」に耳をすませ、喉から「血」 宮柊二の戦争体験は、 **↑衣袴も銃も剣も差上げて** ◎ 渡河序列の隊、馬整すこゑ かつきの風白みくる丘陰に 命絶えゆく友を囲みたり 暁 渉る河の名を知らず 痛切な体験と

ほろ酔 い詩歌紀行

- 酒葉立てたる門

たものである。 の軒先に杉の葉をあつめてしるしとし 「酒林」という言葉は、酒造家など

都会で見ることは少ないが、地方のにしたものが軒先に吊り下げられていたしたものが軒先に吊り下げられているのを目にすることがある。その風情にしたものが軒先に吊り下げられているのを目にすることがある。その風情につられて、つと入ってみようというにつられて、居酒屋やレストランで飲むのとはちがって、いかにも酒そのもむのとはちがって、いかにも酒そのもなった気分になる。何よりも、のに出会った気分になる。何よりも、では、真新しい枡で飲ませてくれるところもあって、なおのこと嬉しい。ところもあって、なおのこと嬉しい。

田和三十七年)という本によると、橘昭和三十七年)という本によると、橘野部「俗語考」に「酒店ノ軒ニ、杉葉字部「俗語考」に「酒店ノ軒ニ、杉葉字部「俗語考」に「酒店ノ軒ニ、杉葉字部「俗語考」に「酒店ノ町の場にでいて、それを屋根付きの小さな櫓におるしているのもあれば、竹竿の先に吊るしてあるもの、軒端に立てかけてあるものなど、いろいろある。まさしく、酒造家ならではの風情を載す杉の葉であるが、これは酒の神であるを良の三輪と深いつながりがあるある奈良の三輪と深いつながりがあるとされている。たとえば、『古今集』に、

訪ひ来ませ杉立てる門我が庵は三輪の山本恋しくば

であるが、柴田喜三代の『酒』(圭文館、

日高昭二

をあるのをはじめ、「謡曲」の「三輪」とあるのをはじめ、「謡曲」の「三輪にも「杉立てる門をしるしにて尋ね給にも「杉立てる門をしるしにで尋ねんであること、しかも酒造りに使う桶などもること、しかも酒造りに使う桶などもること、しかも酒造りに使う桶などもること、しかも酒造りに使う桶などもることなどから、酒と杉の深いがであることなどから、酒と杉の深いがであることなどから、酒と杉の深いがであることなどから、酒と杉の深いした。

うか、下に着ようか迷っている。上にノ下ニ」来て、一重の衣服を上に着よゲナル時」に、一人の下郎が「サカ林ノ半、木ノ葉ノ散ルモ時雨キテ空サム「醒酔笑』にもあるという。「神無月

という記事もあるようだ。

その「酒林」を舞台にした笑い話が、

語られているという。 着て酔いが醒めたらなんとしよう、と ることを意味するという。さて、下に とは着物を売って飲み、酒であたたま 着るとは着物を売らぬこと、下に着る

らしぶりがよく伝わってもくる。 いたって素朴だが、そのぶん人々の暮 られていよう。そこに収集された噺は、 の元ネタになっていることでもよく知 愚楽策伝の『醒酔笑』は、今では落語 寛永年間に刊行された嘲本である安 酒林」は、また「酒葉」とも言わ

れるが、こちらの語が登場するものに 休禅師の歌がある。

娯楽をいづこにありしと思ひしに 酒葉立てたるよも作が門

一休が放ったのがこの歌であったとい が迎えに来て一休を起すと、目覚めた 酔い、寝こんでしまう。そこへ小坊主 或る日一休は、大徳寺の門前にある 何のことはない、極楽は、 よも作の家に行き、したたかに 眼と鼻

あったというのである。

のさきの酒屋の門をくぐったところに

しに杉葉立てたる又六が門」とされて ようで、「極楽をいづくのほどと思ひ いるものもある。「いづこのほど」も、 「いづくの里と」、「いづくのはてと」 この歌、なぜかいろいろ異同がある

とあったり、「思ひしに」も、「尋ぬれば」 ざまに変えていったのであろうか。 などのバリエーションがあるようだ。 いくうちに、受け取る側のほうでさま 一休さんの伝説が四方八方に広がって 一休禅師については、一種の破戒僧

きた。 詠み振りが多くの評家の関心をひいて 酒楽境については、そのわざとらしい が、とりわけ一休禅師の詩歌をめぐる ことのむずかしさが云々されてもきた あるように、なかなかに酒を遠ざける 酒は、すでに「般若湯」などの言葉も と話題になる。寺僧たちにとっての飲 として、その淫楽や酒癖などがなにか

良彦氏 そうした一端については、 の『讃酒詩話』(岩波書店、 沓掛

> 酔」にはならなかったのも無理はない、 る批判」だと読めば、良寛のような「楽 ら、その実腐敗しきった臨済禅に対す わる詩歌とは、「口に悟りを唱えなが 諸家の好悪について言及されている。 良寛和尚の愛酒ぶりと比べて、 い振りを誇張する一休の詩歌に対する 一九九八年)にも見えている。 しかし、一休にとって、飲酒にまつ 己の酔 とくに

の句がある。 がいがなかろう。ふたたび、一休に次 気」は「十分の禅機」という言葉も知 酒店をくぐるのは、一休にかぎらず「極 解釈はどうあれ、杉葉の釣り下がった られているが、そうした彼の詩=禅の 一休の酒では、ほかにも「一分の の気分をもたらすことだけはまち

杉 の葉をつるしてみるや独り酒 きるであろう。

ないが、同じ性格を見て取ることもで は、さきの「極楽を」の歌への言及は と沓掛氏は述べている。沓掛氏の本に

三家族の喜び



内野潤子

(歌人・エッセイスト)

すぐに集るわが三家族 ピザの箱二枚開きて食事ときに

最も幸せな現在の姿となった。なりゆきで私は三家族と暮らしている。人は何て幸せなことと言ってくれる。人は何て幸せなことと言ってくれる。そのなりゆきで私は三家族と暮らしているがそうかられば一家族と暮らしてい

てて住んでもいいよ」と言ってくれた。「もし嫌でなかったら、二階に家を建より処をと苦労していた時、私の夫が学一年生だった女孫のために日当りのとい時いずれも日当りが悪く、当時小した時いずれも日当りが悪く、当時小

娘夫婦は喜んで「そうさせて下さい」 娘夫婦は喜んで「そうさせて下さい」 と返事した。早速大工の私の叔父に頼み二階の建て増しが始まった。叔父はみ二階の建て増しが始まった。叔父はみ二階全部ではなく半分にして私その折二階全部ではなく半分にして私た。只さしておいたのだった。

題もなく住みつづけた。小学生だったと孫が移り住み、古い家も生き返ったとうになった。
外階段にしてあるので、お互いに顔ようになった。
よく日の当る二階の居間に、娘夫婦よく日の当る二階の居間に、娘夫婦

ら」と言った。

孫娘は中学高校とそこから通ひ成長し

くなった。亡くなる前、孫娘は自宅介私の夫は平成十七年二月癌のため亡ダで祖父の夫と並んで写している。

護の祖父をよく看病してくれた。

いった。

の空いている家に入ってもいいかしどたってアパート暮らしの孫娘が「あ誰も住んでいない私方の一軒には荷誰も住んでいない私方の一軒には荷

てきたのだった。
「いいわよ、もし子供でもできたら、「いいわよ、もし子供でもできれてことが引越アパートは狭すぎるから」ということアパートは狭すぎるから」ということ

猫を飼っていいアパートは狭くても

若い孫の婿の青年は、茶を出してくてる音に囲まれて暮らす楽しさを得ることになった。

と新しい風が古家の四隅に吹き渡った。産んでくれた。曾孫凛の誕生である。産んでくれた。曾孫凛の誕生である。

湿りたる足両手につつむこの世にてよくぞ会ひ得し曾孫の

ができた。と感動を詠んだが、その成長の早さと感動を詠んだが、その成長の早さ

らかく煮たり、私のしてやれることだストーブでお粥を炊いたり、お芋を柔方ができた。離乳食を食べはじめて、

り星であり、恋人でもある。
今一歳五ヶ月の彼は、私の希望であけは手伝っている。

変患ひと吾は答ふる 離乳食なりひたすら刻む 離乳食なりひたすら刻む

れるし何か事あればよく手伝ってくれ

んでいる。 又忘れてさつまい芋や、じゃが芋を刻られるだろうか、という思いを抱き、られるだろうか、という思いを抱き、

生命の音の下に暮らせりまだ立てぬ足で床ける音ひびく

ものの芯抱く如くに抱きしむるをはいてどこまでも歩いている。

初めて男孫を得た私の娘は、こんな

細きやさき赤児のからだ

凛を中にして、二人がいつも言うこたと言う。

原を中にして、二人がいつも言うこ とば、「愛してる」「どこからきたの」 などなど人には言えない言ったことも などなど人には言えない言ったことも ない言葉を吐き出して、恥かしくない 空間を持てたのは、天の与えて下さっ たものと私はいつも感謝している。

人間の初めと終わりよく似たり 障子の穴は凛の指先

よろよろ歩く赤児も吾も

寿を超えて時によろけたりする。

という歌も生まれてくる。食事だけという歌も生まれてくる。食事だけは、自分で作りたいので、自転車で近は、自分で作って、「おいしい」というのものを作って、「おいしい」というみんなの声が聴けるのも、喜びの一つになっている。

嵯峨信之先生と江藤淳先生



宮地智子

(詩 人)

文芸評論家の江藤淳が他界した 文芸評論家の江藤淳が他界した 一九九九年には、文芸雑誌はこぞって その追悼特集を組んだと記憶しているが、私の手元には、その年の『新潮』 かい 私の手元には、文芸雑誌はこぞって

『Pureté』の巻頭に、本名の江頭淳夫滕元雄などと一緒に創刊した詩誌そこには昭和二十八年に詩人安

しないなにものかに出逢ってしまったという評論が載ったことが記されている。そして、その評論が、、当時権威る。そして、その評論が、、当時権威る。そして、その評論が、、当時権威のあった『詩学』という雑誌の短評でのあった『詩学』という雑誌の短評での名で書いた「マンスフィールド覚書」

かも知れなかった」と書いている。

その小さな生は眠りに囲まれている」

「人間は夢と同じ材料でできてい

って、

-ある日の講義で江藤先生は黒板にこ

と、書いている。 と、書いている。 題されて載っている。 と、書いてれる。 と、書いている。 の書店に走って行って『詩学』を見つの書店に走って行って『詩学』を見つの書店に走って行って『詩学』を見つの書店に走って行って『詩学』を見つの書店に走って行って『詩学』を見ついる。

圧倒されたものだった。

正倒されたものだった。

正倒されたものだった。

正倒されたものだった。

正倒されたものだった。

のように書かれた。この詩のような哲学のような一節を、私はずっと江藤先生の独自の言葉として記憶していたが生の独自の言葉として記憶していたが生の独自の言葉として記憶していたが学のような一節を、私はずっと江藤先学のように書かれた。この詩のような哲のように書かれた。この詩のような哲のように書かれた。この詩のような哲

その江藤先生が、評論家として出発して出発しているまで編集に携われた詩は、私にとってのもう一人の先生・詩は、私にとってのもう一人の先生・詩は、私にとってのもう一人の先生・詩は、私にとってのもう一人の光生・

ずねて行ったそうだ。そして、 当時大岡信が勤めていた新聞社までた 依頼をしている、という。 テーマでエッセイを書かないかという おけるシュルレアリスムの功罪という 日本に

江藤淳は幸運だったと言える。 視野のなかにキャッチされた大岡信や として活躍されていた嵯峨先生の広い 『文芸春秋』草創期の頃から編集者

勉強していた仲間の有志が、最後の詩 嵯峨先生が主催される東京詩学の会で として刊行された。かつて月に一度、 にして思潮社から『嵯峨信之全詩集』 《『小詩無辺』に因んで「無辺の会」 その嵯峨先生の全集が、死後十五年

峨信之全詩集』記念号」では、十名が 当日配付された冊子「無辺の会会報『嵯 て二〇一二年六月十七日に開催された。 、私の嵯峨信之論、を載せた。私は、

なにもかもひとすじになって

その空を飛んでいる一羽の信夫翁よ わが偉大な休息の島

耳にした嵯峨先生のこの言葉を端的に しているからだ。《何かの折りによく は生やさしいことではない。そのこと 自体が新しい内容・新しい精神に直結

上げたなかのひとつ「ここは何処なの か」を全行書き写してみる。 ている英文学者の高市順一郎氏が取り 英訳の嵯峨先生の詩を外国に紹介し

示した短詩であるからだ。

なにもかも遠くなる 遠いことはいいことだ 憎しみが 心だって

と名づけた偲ぶ会が全詩集刊行を祝っ

やさしい空気が道に迷う 水がこきざみに流れ 丘に日が沈み

別れることはいいことだ

自分に帰ってくる

沈黙だって

時だって

自分の影だって

見えないものがすべて自分のものだ

独りになる

みる 死をたぐりよせてみる やさしい自分のさいごをいたわって

のだ まごうかたなくそれは自分のものな

ああ 在りし日にぼくは何処を

彷徨っていたのか ここは何処なのか-

之の持論ほど文学の神髄に迫るもの 賭けの文学なのである」という嵯峨信 もない。超時間的批評の文学であり、 「詩は青春の文学でも老人の文学で 他に私は知らない。

の扉にある無題の序詩を取り上げた。 冒頭で第五詩集『土地の名~人間の名』

お酒は百薬の長



御神酒でしょう。 な鳥居の奥にある深遠なお社 ましょう。神様で思いつくのは、 らしい年になるように神様にお願いし 平成二十五年の初春にあたり平穏 災害もなく、景気が回復する素晴 初詣と

役立つことがあきらかにされ臨床で使 に含まれるリゾチームが風邪の治療に んでした。ただ、卵酒についてその中 科学的な研究報告があまりみられませ かしながら、以前はその裏付けとなる 食欲增進剤、 た。その効能は傷の消毒、 スーパードラッグと考えられてきまし といわれております。そのため、 ところで、お酒は古来より百薬の長 風邪の卵酒などです。 気付け薬、 昔は

その頃、

玉 あります。 をきたしにくいといわれていたことが の間では、飲酒歴のある方は動脈硬化 あります。ところで、数十年前は医師 防ぐ善玉(HDL)コレステロールが よく知られております。このコレステ が高いと動脈硬化を進展させることは われております。 ロールには、動脈硬化を進行させる悪 また、 (LDL) コレステロールとそれを 血液中の総コレステロール値

られておりました。

こで、善玉コレステロールを測定した ところ、飲酒している方では動脈硬化 定が可能となってきておりました。 H D L コレステロールの中の善玉 コレステロ ールが臨床で測 そ

> 虎の門病院 内分泌代謝科 夫

など飲酒習慣のある方は動脈硬化が進 テロールが増加したことにより、 れました。この善玉(HDL)コレス 中に増加してくることがあきらかにさ を予防する善玉コレステロール 行しにくいのではないかと一時は考え が 血

硬化の予防に有効かどうかについては ました。アルコールのこの効果が動脈 驚くべきことに一五○嘅/此前後と三 したが、お好きな深酒を続けますと、 ルが飲酒しない時は五○嘅/dほどで ロールはもとの五〇四/d前後に戻り ルコールを中断しますと善玉コレステ 倍にも上昇してきました。そして、ア ある男性で、血中善玉コレステロー